

研究 成 果 報 告 書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB	中国の環境問題における人口抑制の意味——環境難民と三峡ダム住民移転を中心に				
研究テーマ (欧文) AZ	Meaning of Family Planning in the Environmental Problems in China				
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓) ワカバヤシ	名) ケイコ	研究期間 B	2010～ 2012年3月
	漢字 CB	若林	敬子	報告年度 YR	2011年度
	ローマ字 CZ	Wakabayashi	Keiko	研究機関名	東京農工大学
研究代表者 CD 所属機関・職名	東京農工大学 シニアプロフェッサー・名誉教授				
概要 EA (600 字～800 字程度にまとめてください。) 世界人口 70 億人、内中国は大陸のみですでに 13.5 億人、この世界一の人口超大国中国は、人口と環境の二つの課題を相関連する二大国策として位置づけ取り込んでいる。環境とりわけ砂漠化、水土流出、塩害化などの生態環境悪化が深刻に進み、広大な国土といえども人間の居住範囲は限定されつつあり、人口分布も極めて不均衡である。 さらには砂漠化をとってみても、次第に拡大・悪化しつつあり、黄砂も日本も含め他国の欧州にまでふりそそぎ、その影響は軽視できない状況と化している。 1979 年に一人っ子政策が開始され、この政策は環境の視点からみれば“全国民の痛みを伴った最大の環境対策”だといわれる。この厳しい賞罰を伴う国策による環境等への影響を人口・環境社会学の視点から検証した。 本研究では、第 1 に生態環境悪化に伴う“環境難民”の実態を黄土高原で社会学的アンケート調査を実施、かつ「退耕還林(草)」1999～2004 年実行の実態分析を行った。(寧夏社会科学院副院長、中国社会科学院数量経済与技術研究所研究員・林燕平の協力を得た) 林燕平女史は自ら志願して環境の最も厳しい寧夏で長期調査生活をおくり、『山村の守望』の報告書を刊行、高い評価を得たところ。若林らは 2011 年夏の 1 カ月中国滞在中、この旧友と研究交流を行い、黄土高原の環境難民がさらなる増大にむかいつつあること、研究のさらなる進展の必要を確認しあった。 第 2 に三峡ダム建設に伴い 140 万人(当初 113 万人、最終的に 140 万人の見込み)が強制移住するにあたって、上海の崇明島で生活している移民者の生活と意識の実態にせまろうとした。(上海社会科学院世界中国論壇へ招待され国際会議で発表したが、崇明島での直接調査は微妙な問題であるために上海市政府より断られた) 三峡ダムは中国国家の威信をかけての課題であり、140 万人にも膨らんだ強制移民の貧困化の今後が注視される。ダムもいずれ土砂で埋められて機能を停止するのではないかの難課題を懸念され、中国環境の暗部となっている。 第 3 に辺境の雲南農村での限られた耕地内で民族の力関係の中で(特に山間部の標高により)住み分けられている環境と人口分布居住の実態について考察した。(ベトナム国境の河口の調査 2010 年 11 月 3 日～11 月 16 日(なお、若林は雲南民族大学客員教授である)、また 2011 年 2 月 18 日～2 月 23 日、ベトナムのホーチミン、ハノイ調査を行った) 雲南は若林が客員教授かつ姉妹校にもなっており、着実に成果は大きい。2006 年「雲南における少数民族人口・婚姻と国際人口移動に関する国際問題」の成果をまとめた本をつくったが、特に母系制社会のモソ人や一妻多夫制のチベット族など、メコン川をめぐる国境移動について単著をまとめたいと検討中である。 なお中国社会学会では 1990 年代に「人口と環境社会学研究会」をたちあげ、人口と環境についての上記のような研究を積極的に進めてきた。 わが東京農工大学若林研究室においても人口流動と高齢化について広く研究を蓄積することができ、この研究費によって、お陰様で別途にお送りするような多くの成果を得ることができた。深くお礼申し上げる。					
キーワード FA	人口	中国	環境	一人っ子政策	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	中国の人口問題をめぐる最新事情—2000 万人巨大都市の上海市を含めて							
	著者名 ^{GA}	若林敬子	雑誌名 ^{GC}	日本国際問題研究所『国際問題』焦点：深刻化する世界の人口問題					
	ページ ^{GF}	26～38	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	2010 年 7・8 月合併号、第 593 号
雑誌	論文標題 ^{GB}	中国都市部と農村部における高齢者の生活と社会保障—上海市・海南省の調査から							
	著者名 ^{GA}	聶海松	雑誌名 ^{GC}	『日中社会学研究』（日中社会学会）					
	ページ ^{GF}	132～145	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	18 号
雑誌	論文標題 ^{GB}	中国的老齡人口及社会保障— 一个基于六省实证调查的社会学研究							
	著者名 ^{GA}	若林敬子・馮文猛・聶海松	雑誌名 ^{GC}	上海社会科学院家庭研究中心編『中国家庭研究』（中文）					
	ページ ^{GF}	72～84	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	第 5 卷
雑誌	論文標題 ^{GB}	Social exclusion of the Elderly in China							
	著者名 ^{GA}	馮文猛	雑誌名 ^{GC}	OECD Report					
	ページ ^{GF}	221～230	発行年 ^{GE}	2	0	1	2	巻号 ^{GD}	—
雑誌	論文標題 ^{GB}	Social Exclusion of the Elderly in Contemporary in China:							
	著者名 ^{GA}	馮文猛	雑誌名 ^{GC}	OECD Report					
	ページ ^{GF}	1～18	発行年 ^{GE}	2	0	1	1	巻号 ^{GD}	—
図書	著者名 ^{HA}	若林敬子・聶海松・馮文猛（中国における人口と環境研究会）							
	書名 ^{HC}	中国における人口と環境——高齢化・社会保障・出生性比からみた一人っ子政策の 32 年							
	出版者 ^{HB}	若林敬子	発行年 ^{HD}	2	0	1	2	総ページ ^{HE}	110
図書	著者名 ^{HA}	若林敬子							
	書名 ^{HC}	農村・人口・中国の社会学を追い求めて							
	出版者 ^{HB}	若林敬子	発行年 ^{HD}	2	0	1	2	総ページ ^{HE}	102

欧文概要^{EZ}

In 1979, three years after Mao's death, a one-child policy was introduced to reduce China's burgeoning population. The one-child policy has been spectacularly successful in reducing population growth, particularly in the cities (reliable figures are harder to come by in the countryside). Family planning and environmental protection are regarded as basic national policies.

The relationship between population, resources, environment and development should be appropriately coordinated so as to lessen population pressures, which is an important aspect of ensuring sustainable social and economic development in the socialist modernization drive.